

## 15-16 ウエペケレ「ポン ウェン シサム ウエペケレ」解説

語り手：鍋澤ねぷき  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：えー、私は一人の **sisam** [和人] の **wenkur** [貧しい人]、**pon wen sisam** [若い貧乏和人] でありました。

えっと、母と一緒に暮らして、薪を取ってはそれを売りに行って、その代わりに米の糠をもらおうと、その米を通すとその中からいくらか、その米粒が出る。それを特別に炊いて神様にあげるといような、生活をしておる **sisam** の若い者でありました。

あるときに母の言うのには、「お前があまりにも、こう、その貧乏なのは何か理由があるかもしれないから、ずっと遠いところにそうしたことを聞いて、教えてくれる神様がおるといことだからそこへ行ってきなさい」と言われたので、まあ出かけることにした。

で、まあ少しの、そのお金を懐にして出かけた。お母さんの言うのには「よそへ行って泊まるのにもあまり貧乏人の家に泊まってはいけませんよ」と。「できるだけ、その裕福そうな家へ泊まりなさい」と言われたので、そのように思いながら、まあ出かけ、第一日目の晩に泊まった家で「坊やさんどこへ行くの」と言われたので、「こういうわけであまりにも貧乏なので、それを聞きに行くんですよ」と言ったら、えー、「そんならここの村の、んーお姫様が病気で困っているからその理由を聞いてくださいね」と言われた。「はい」と言って、まあ行ったと。

その次に行ったのは、んー二晩目に泊まったところでは、あの一、「どうしたのか、んーここの家の前に生えていた松の木が枯れて、えー、その理由がわからないからそれも聞いてきてくださいね」と言われた。

それから三晩目泊まって出かけたら、一つの橋があって、その橋の上に女いたわけかな？

鍋澤：男。

萱野：あ、男だな。キレイな男の人が居って、「どこ行くの」と言ったから、「こういうわけで、えー、その貧乏した理由を聞きに行くんだよ」って言った

ら、「あーそうですか、まあ実は、これは私は人間に見えるんだけど、本体は蛇なんだ」と、海に千年、山に千年、川に千年かい？

鍋澤：うん。

萱野：「三千年暮らしてもう天国へ行けるはずなのに、それが行けない。その理由を聞いてきてくださいね」と言われた。

それで、えー、あそこへ見える町のものが、その、「そういうことを教えてくれるところだから」と言われたので、出かけて行って、すぐに、まあ聞き始まった。一人で三つしか聞けないので頼まれた順々に最初にその、んーお姫さんの病気の理由を聞いたら、それは家の前で植えてある梨の木の根っこが、あー来て、そのお姫さんの寝ている下で丸まきって、それが理由だと、それを掘り起こすと治りますと言われ、二つ目の松の木の方のは、そこの前に住んでおった人がたくさんお金を貯めて大きな瓶（かめ）に入れて埋めたと、そして死ぬ前にそこへ松の木を植えた、それで松の木枯れたんだから掘り起こしてみなさいと言われた。

三番目のは、その蛇、まあ蛇がした……下界での生活終えて帰るはずなのに、まあ、その頭の中で銀の玉が入っていると、それを取らないとだめですよと教えられたので、戻りながらそれを一つずつ言って、その病気の元も解決し、それから松の木の根の埋めてあったお金も半分もらい、そのいわゆる *catay* [蛇体] と蛇のあれも頭を切って、その玉を出してそれをお守りとしてもらい、まー、その梨の木の方の御嬢さんはお嫁にもらって、えー、家へ帰ってきたという *sisam uepeker* [和人の昔話] のあれですけど、非常にその、昔のその、なんか生活の一端が、いわゆるアイヌとシャモ [和人] との生活の違いっていうか、そんなような筋書きなんか伺うことのできる *uepeker* [昔話] です。

これは *sisam uepeker*. [和人の昔話]。 *pon wen sisam uepeker* [若い貧乏和人の昔話] というふうに、えー、ついております。

鍋澤：あーこんなふうに言われ…… *pon uepeker* [短い散文説話] だけでも、ほんとに。